



東(に)風(ち)



HPへの
QRコード

旭川市立神居東中学校
令和5年度学校だより

No.6

令和5年10月3日(火)発行

〒070-8014 旭川市神居4条19丁目 Tel:0166-61-8298

『青春は密だ』

校長 神林 宏行

9月29日、アフターコロナの新生「学校祭」として、合唱はもちろんのこと、新たに体育館ステージでの各学年発表を加えて、学校祭を実施しました。

今年のスローガンは「青春Festival～響かせ声 咲かせ個性～」でした。中学時代は、もちろん「青春」真っ只中。「青春」と聞くと、去年の流行語大賞特別賞に輝いた「青春って、すごく密なんで」という、仙台育英高校野球部監督、須江航さんの言葉が思い出されます。

4年前に始まった新型コロナウイルスの流行によって、私たちの生活は一変しました。感染対策として「三密の回避」が求められ、それは5類に移行した今でも、さほど変わりません。いつしか「密」は忌避すべきものになり、マスクの着用も相まって、人と人とのつながりまでが希薄になってしまったように思います。

ですが、「密」には、「親密」とか「濃密」という言葉があるように、「関わりが濃いか、その内容や過ごしている時間に喜びや感動、やりがいを感じる」といった意味もあり、皆さんは今まさにそんな時期を過ごしているのだと思います。そして、この学校祭に向けて、学級や学年が丸となって「密」な時間を共有してきたことでしょう。学校祭当日は、そのようにして育んできた学級・学年の絆の強さを示すように、全校生徒の笑顔が花開く、素晴らしい青春の1ページになりました。

午前のプログラムは、1・2年生の発表と合唱コンクールでした。1・2年生の発表は、それぞれ工夫を凝らしたものでしたし、その後の合唱コンクールは、各学級とも、精一杯練習を重ねてきた成果が見事な合唱として体育館に響き渡りました。やはり、とりわけ3年生の合唱は、本当に感動しました。一人一人の歌への情熱と仲間への思い、さらには、いつも皆さんの成長を願って止まない先生方の熱意、それらがこの素晴らしい合唱に結実しているのだと感じました。

午後の吹奏楽部の発表や生徒会企画も楽しい時間でした。そして何より、ステージ発表のトリを飾った3年生の「ダンス、よさこいソーラン」は圧巻でした。まさに、今年のスローガン「青春Festival」＝「青春は密だ！」ということを見事に体現する、エネルギッシュな発表でした。

また、発表とともに感動したのは、各学級・学年の発表を、真剣に、しかも全身で受け止めようとしていた皆さんの姿です。皆さん全員の力で「学校祭」を大成功に導いてくれたことに、改めて大きな拍手を送りたいと思います。全校生徒の皆さん、御指導くださった先生方、たくさんの感動をありがとうございました。



令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果

神居東中3年生, 国語・数学・英語全て全国平均を上回る!



4月18日に実施した「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果が発表され、本校に送られてきました。3年生の個人票につきましては、すでに生徒にお渡ししました。神居東中学校全体の正答率は、国語・数学・英語全てで全国平均を上回る結果となりました。

調査結果から、本校の学力や学習状況、課題等を把握することができました。詳細は別紙をご参照ください。この結果を受け、各教科においては、今後も学習指導の改善・充実に取り組んでいきます。

なお、同日に行われた生徒質問紙から明らかになった課題につきましても、お子さんと学校生活や家庭での生活の話題にしていいただければ幸いです。

※分析結果は別紙に載せております。

「青春フェスティバル」～響かせ声 咲かせ個性～

9月29日に「学校祭」を実施しました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期しての開催でしたが、無事に実施できたこと、そして保護者の皆様にも御鑑賞いただいたことを大変うれしく思います。

中断期間は、練習や準備はできず、4日間で仕上げなくてはいけない厳しい中ではありましたが、どの学年、学級も感染症に気をつけながら真剣に意欲的に練習に励んだり、準備を進めました。特に合唱コンクールでは、どのクラスも美しい歌声を響かせました。最優秀賞は3年1組の「信じる」でした。3年2組の「君が君に歌う歌」も大変素晴らしく、審査審査は難航しました。1・2年生の合唱も美しく迫力のある歌声でした。

3年生の頑張りは後輩たちの良き見本となります。自分たちも「こうなりたい」という具体的な目標ができたのではないかと思います。先輩が立派な姿を示し、後輩がその姿を見て、それに近づこう、超えようとする。神居東中の良き伝統はしっかりと継承されていきました。



10月の主な行事

- 2日(月) 常任委員会
- 3日(火) 小中音楽発表会
- 6日(金) 二計測・英検
- 8日(日) 全道駅伝(新得町)
- 10日(火) 旭川市教育研究大会(臨休)
- 11日(水) 生徒総会・認証式
職員会議(部活動中止)
- 12日(木) 3年生学力テスト
- 13日(金) 教育実習(私立大Ⅱ) 終了
- 15日(日) 吹奏楽部定期演奏会(体育館)
- 16日(月) 教育相談(担任と生徒)
(16日～24日)
- 20日(金) 漢字検定
- 25日(水) 給食費等振替
- 26日(木) 3年生定期テストⅡ 1日目
進路説明会
- 27日(金) 3年生定期テストⅡ 2日目
常任委員会

後期生徒会役員選挙立会演説会

9月25日(月)に後期生徒会本部役員選挙の立会演説会を実施しました。立候補者と責任者は、堂々と立派な演説を行いました。定数7名に対し、立候補者が7名でしたので、信任投票となり、投票の結果、全員が当選を果たしました。新しいリーダーとして活躍を期待しています。

生徒名は、個人情報のため、削除しております。御了承下さい。

問題1

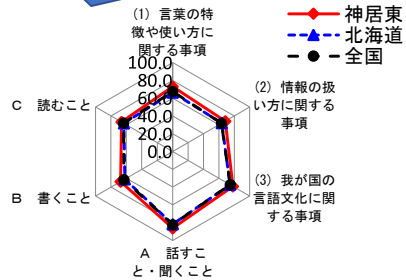
知識・技能（情報の扱いに関する事項） 思考力・判断力・表現力等（話す・聞くこと）				
設問	一	二	三	四
全国正答率	87.5%	65.1%	76.6%	82.5%
全国との差	↑	↑	↑	↑

矢印「↑」は正答率が全国を上回っていることを表しています。

設問一～三は、内容に合った条件で解答を書く問題でした。設問内容は、相手の話を受けて発した質問について、述べ方とその意図を説明したものとして適切なものを選択するものであり、本校は高い正答率でした。設問の内容をとらえる力は、おおむね付いてきていることが分かりました。

検証分析

国語の全分野の平均正答率をグラフ化したものです。



問題2

知識・技能（言葉の特徴や使い方・情報の扱いに関する事項） （我が国の言語文化に関する事項） 思考力・判断力・表現力等（読むこと）				
設問	一	二	三	四
全国	91.1%	63.0%	74.2%	67.5%
全国との差	↑	↓	↑	↑

矢印「↓」は正答率が全国を下回っていることを表しています。

二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する問題でした。文章の内容にはどのようなことが書かれており、その文章をまとめると、どの表現が適切かを選択する問題の正答率が低いことが分かりました。

問題3

知識・技能（言葉の特徴や使い方・情報の扱いに関する事項） 思考力・判断力・表現力等（書くこと）				
設問	一	二	三	四
全国	54.3%	43.9%	61.8%	72.1%
全国との差	↑	↑	↑	↑

思考力・判断力・表現力に関する設問については高い正解率となっています。しかし、二は漢字を楷書で書く問題でしたが、正答率は低かったです。「楷書」の言葉の意味や漢字を正しく書くといった基本的な知識を今後とも付けていく必要があることが分かりました。

問題4

知識・技能（我が国の言語文化に関する事項）			
設問	一	二	三
全国	82.5%	74.1%	50.0%
全国との差	↓	↑	↑

古典の基礎的な知識や技能を問う設問については全国平均をわずかに下回っている問題もありましたが、概ね備わっていることが分かりました。現代語で書かれた「竹取物語」と古典とを比較し、どのような工夫が文章内になされているのかを問う設問については、根拠を明確にした上で、工夫されたポイントを書く（表現する）ことが苦手な生徒が多いことが分かりました。

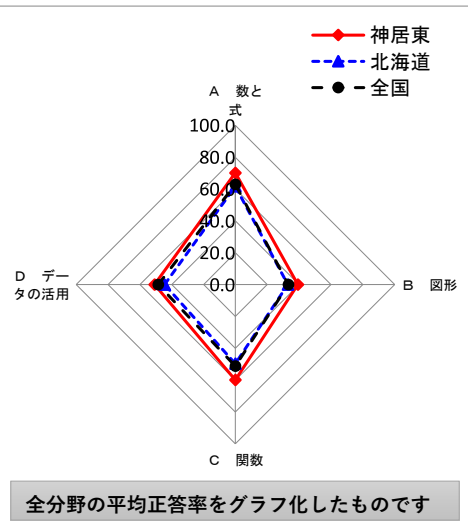
今後身に付けたい力

テストを通じて分かったことは、昨年度同様、文章に書かれている内容を読みとる力は高いことが分かりました。文章の内容を読み取ることを大切に授業していることや、朝読書の継続がこの結果につながっていると考えられます。反対に、『自分の考え』をまとめ、表現する（書く）ことに苦手意識を感じている生徒が多いことが分かりました。推測されることとして、①SNSやメッセージアプリの普及により、略語や顔文字などの短縮表現が主流となっているで、正確で豊かな文章表現を行う場面が少なくなっている。②適切な語彙をつかひこなせていないため、自分の思考や感情を正確に表現することが難しい。上記を改善するために、以下の取組を継続させていきたいと思ひます。

- これまで通り、多くの本や記事を読む。様々なジャンルの本を選ぶなど、日常的な読書習慣を身に付ける。また、ノーゲームデー（ノースマホデー）を定期的に行う。
 - 授業の中で読んだテキストや文章を分析し、主題や要点、論証のプロセスを単に教師の説明で済ませるのではなく、自分でトレース（論理の軌跡をなぞらせる）するなどの取組を多く取り入れることで、文章の構造や表現方法を生徒自ら着目させ、論理的なつながりを理解させる。
 - 国語科だけではなく、全ての教科でディスカッションや文章作成を積極的に行うことで、自身で文章を書く機会を増やし、他の人と意見を交換したり、自分の考えを文章にまとめることで、論理的思考力や表現力を向上させるなど、書く機会を保証し、教師がサポートする。
- これらの方法を組み合わせて取り組むことで、考えを言葉豊かに表現していくことができる生徒を目指します。

令和5年度 全国学力・学習状況調査（数学編） ※これまでの取組をもとに検証分析しております。

番号	観点	領域	出題の趣旨	全国正答率	全国との差
1	知	数式	自然数の意味理解	46.1%	↑
2	知	数式	数と整式の計算技能	80.5%	↑
3	知	図形	空間における平面を決定する条件の理解	30.4%	↑
4	知	関数	反比例の意味理解	42.8%	↑
5	知	データ	累積度数の意味理解	46.1%	↓
6-1	知	数式	問題場面における考察の対象を捉える	88.9%	↑
6-2	思		目的に応じた式変形と成り立つ理由の説明	58.8%	↑
6-3	思		結論が成り立つための前提の考察と説明	40.9%	↑
7-1	知	データ	四分位範囲の意味理解	65.7%	↑
7-2	思		データの傾向を捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明	33.6%	↑
8-1	知	関数	表やグラフから必要な情報を読み取る	57.5%	↑
8-2	知		理想化・単純化することで表された直線のグラフの解釈	61.7%	↑
8-3	思		事象の数学的解釈と解決方法の数学的説明	42.8%	↑
9-1	思	図形	ある事柄が成り立つことの証明	32.1%	↑
9-2	知		条件変更で事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る	37.0%	↑



『↑』は正答率が全国を上回っていることを表しています。

検証分析

入学当初は、数学を苦手としている生徒が多かったですが、特に以下の2つの点を意識した組織的な指導により、ほとんどの領域で全国平均を上回ることができました。

1 組織的な取組による基礎・基本の定着

【注目した結果】例年、数式や考察に関する問題の正答率は75%程度でしたが、今回はそれを大きく上回る正答率となっています。

特に『番号2 数と整式の計算技能』『番号6-1 問題場面における考察の対象を捉える』の正答率が高かったです。

【結果の分析】

①学校全体で組織的に取り組んでいる家庭学習の働きかけにより、学年に応じた学習習慣の定着と基礎・基本の確実な定着が学力の向上につながっている。

②個に応じた粘り強い指導が、計算技能や考察の対象を捉える力の向上につながった。

③少人数指導とチームティーチングによる個に応じた指導の継続が学力の向上につながった。

2 教科横断的な指導による資質・能力の向上

【注目した結果】グラフの読み取りや数学的な説明を求める問題を見ると、例年本問題の類題正答率は「40%程度」の正答率だったが、今年度の本校は、高い正答率でした。

特に『番号8-1 表やグラフから必要な情報を読み取る』『番号8-3 事象の数学的解釈と解決方法の数学的説明』の正答率が高かったです。

【結果の分析】

①関数領域において理科と数学が連携し、実感が伴う理解となるようそれぞれの教科で指導を行った。データの活用領域では、国語科における批判的思考と関連付けた指導を行った成果であると考ええる。

②全教科において教科横断的な視点で言語活動『なぜ？どうして？』という発問を多くすることに取り組んだことで、より思考力、判断力、表現等で結果に表れたと考える。

今後の課題と改善策

【注目した結果】証明問題や証明を振り返って読み取る設問の正答率が低く、今後の課題となりました。

特に、『番号9-1 ある事柄が成り立つことの証明』『番号9-2 条件変更で事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る』の正答率が低かったです。

【結果の分析】

①知識を活用し、条件などに応じながら論理的に思考し表現することを苦手としている。

②いくつかの条件や結果を組み合わせて、論理的に思考し正解を導くことを苦手としている。

【改善策】

本校では、今後、論理的な思考を定着させるために、見通しをもたせる場面を多く設定し、様々な考え方から、条件に合った解答を導き出すことができるよう指導にあたります。そのためにも、一人1台端末をさらに活用させることで、多くの問題に触れることで今後も、協働的な学びと個別最適な学習の充実を図っていきたいと思います。

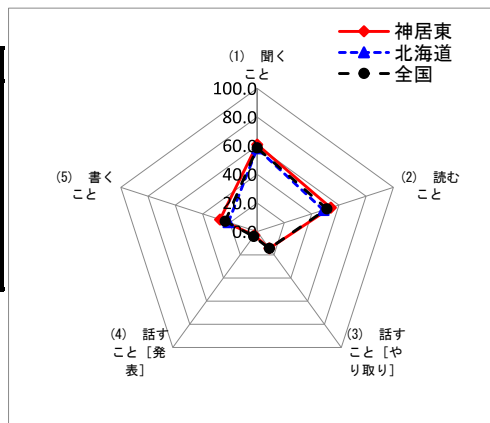
令和5年度 全国学力・学習状況調査（英語編）※左下の区分をもとに検証分析しております。

全分野の平均正答率をグラフ化したものです→

分類	区分	全国正答率	全国との差
学習指導要領の分野	(1)聞くこと	58.4%	↑
	(2)読むこと	51.2%	↑
	(3)話すこと（やりとり）	15.4%	—
	(4)話すこと（発表）	4.2%	↓
	(5)書くこと	23.4%	↑

『↑』は正答率が全国平均を上回っていることを表しています。

『—』は正答率が全国平均と同じことを表しています。



検証

分析① 情報を正確に聞き取る設問

(1)<(2)<(3)と設問が進むにつれて難易度が上がっている問題でした。(1)ベッドや机の上にあるもの(2)道案内の場面(3)買い物の場面となっており、具体的な場面における単語、表現、文量をどれだけ理解しているかがポイントでした。全国平均は上回っていましたが、使用する語句が多く、聞き取ることが難しい設問でした。

検証

分析② 情報を読み取り、表現の効果を考えたり、要旨を把握する設問

設問3では、バーベキューパーティーの準備にあたり、グループごとに何をするか、自分がリーダーとしてグループメンバーに仕事内容などを伝えるために、必要な情報は何かを判断して聞き取るという設問でした。指示の中に、「each」「forget」という単語が使われ、この2つの単語を聞き取ることができていれば、必要な情報を判断し、正解できた設問でした。また、設問6は相手のメールから、相手と自分の状況についての情報を読み取り、相手が示した条件に合うイベントを選ぶ設問でした。後半は、語彙量や英文の構造や文法事項の理解が求められ、しっかり定着していないと、話し手の最も伝えたいことを捉えられなかった傾向にありました。

検証

分析③ 正確に書く設問

動詞を正しい形に書きかえる問題では、visit（訪問する）をam going to visit（will visit）の未来形に置き換えるところを過去形で答えたり、受け身の文で答えるなど前後の対話の時制を読み取れてないことが分かり、様々な時制を表す基本文の定着が課題となりました。また、依頼の文を書きかえる問題では、Please＋動詞の原形／Can(Could) you＋動詞の原形～？などの表現が思い浮かばず、知識として確実に定着していないことも分かりました。

課題と今後身に付けたい力（話すこと）

思考・判断・表現を問う問題については難易度が高く正答率が低い傾向にあります。特に、話すことに関する設問については、全国的に見ても正答率が非常に低く、今後の課題となりました。今後は、①基礎・基本の徹底（単語や文法を定着させるためのミニテストの継続）②設定された場面（例：外国人に道案内をする等）で既習内容をどのように使っていったらよいか、様々な問題を用意し、繰り返し取り組むとともに、単語、文法の習得、リーディング、ライティング、リスニングをバランス良く指導をしていくことを意識した指導をに取り組んでいきます。

令和5年度 全国学力・学習状況調査（生徒質問紙編）

本校の注目すべき事項（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した割合）※一部を除く

番号	観点	質問事項	全国回答率	全国との差
1	生活習慣	朝食を毎日食べている。	88.8%	↑
3		毎日、同じくらいの時間に起きている。	91.3%	↓
4	自己肯定感	自分には良いところがあると思う。	80.0%	↓
5		先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。	87.3%	↑
7		将来の夢や目標を持っていますか。	66.3%	↑
12	安心安全	学校に行くのは楽しいと思う。	82.5%	↓
24		読書は好きですか。	66.0%	↑
40		話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	79.7%	↑
44		学校生活をより良くするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。	77.9%	↑
6	学びを深める環境	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	88.9%	↑
17		学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 ※1日1時間以上の割合	66.1%	↑
33		1, 2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。 ※「ほぼ毎日」「週3回以上」の割合	61.1%	↑
34		学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	93.5%	↑

↑は全国平均を上回っています。

検証分析

生活習慣に関しては、起床時間に関する項目が全国平均を下回ってはいますが、その値はほぼ等しく、昨年度同様、安定した生活を送っている生徒が多いことがわかりました。

自己肯定感については、全国と比べて高い水準となっているものの、「自分には良いところがあると思う」については、残念ながら昨年度に比べ、数値が下がってしまいました。安心安全については、特に話し合い活動において、自分の意見を安心して述べるができる雰囲気が学年としてできています。しかし、「学校に行くのが楽しい」と感じてる生徒の割合が低下しています。自己肯定感の向上とあわせて、目標の達成や感動を共有し、生徒の困り事や不安に寄り添う体制作りを充実させていきたいと思ひます。具体的には、生徒からの意見に耳を傾ける時間を多く確保したり、学ぶ楽しさを実感できる授業を展開することで、学校は楽しいと思える環境作りに取り組んでいきます。

また、ICTの活用についてもより効果的な活用を更に進めることで、学力向上につながるような準備や工夫をしていきたいと思ひます。

前年度に比べて改善が見られた項目

番号	質問事項	全国回答率	全国との差
10	困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。 ※「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した割合	32.8%	↑
9	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 ※「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した割合	3.9%	↑
40	授業で学んだことを、他の学習で生かしていますか。	69.9%	↑

↑は全国平均を上回っています。

困り事や不安な気持ちを抱え、それを伝えられないでいる生徒の割合は減少してきましたが、**決して低い数値とは言えません。**自己肯定感の向上と合わせ、今後も生徒の様子や状況を細やかに見守るとともに、生徒1人ひとりに寄り添った対応をしていきます。また、保護者の方との連携も更に密にしていきたいと思ひます。

いじめについては、どんな理由があっても許されるものではない。ということ、道徳科や普通の学校生活など、様々な場面で積極的に伝え、確認していくことで、今後も生徒全員が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と胸を張って言える学校にしていきたいです。

各教科で学んだことが、他の教科や総合的な学習、道徳等とどのようなつながりがあり、どう生かすことができるのか、**考える場面を様々な場面で設定しながら、引き続き教科横断的な学習に取り組んでいきたいと思ひます。**